

4月のほけんだより

平成29年 第197号

呉市役所
子育て施設課
0823-25-3144

予防接種について

【感染症と予防接種】

子どもの病気で一番多いのは感染症です。

感染症には風邪程度の軽いものから、命に関わる重いものまであります。

予防接種をすることで、病気にならないようにしたり、かかっても重症化するのを防いだりすることができます。

平成26年10月に水痘ワクチンが定期接種化されてから、早くもその効果が現れ始めており、水ぼうそうにかかる子が少なくなっています。

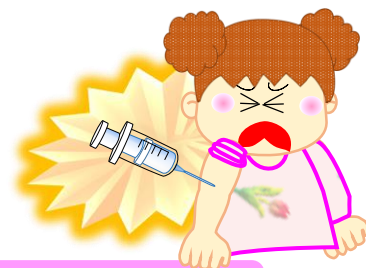
特に乳幼児期に、水ぼうそうで入院する例が減少し、定期接種化は大きな力を発揮しています。



生ワクチンと不活化ワクチン



予防接種は生ワクチンと不活化ワクチンに大別されます。



生ワクチン

生きた病原体を弱めて作った予防接種。

生ワクチンは、体に軽く感染させ免疫を作るので、接種後しばらくしてその感染症の症状がみられることがあります。(たとえば「おたふくかぜワクチン」であれば、耳下腺が腫れる症状がみられることがあります。)

不活化ワクチン

病原体を殺菌し、免疫を作るために必要な成分だけを取り出して作った予防接種。実際にその感染症の症状がでることはありませんが、繰り返し接種する必要があります。

期間を過ぎちゃうと
お金がかかるよ～



定期接種(無料)と任意接種(有料)

予防接種には国が積極的に勧めている定期接種と、希望者のみが受ける任意接種があります。定期接種は定められた期間内であれば費用はかかりません。

【B型肝炎ワクチンについて】

平成28年10月から定期接種になりました。

B型肝炎は、急性肝炎となりそのまま回復する場合もあれば、慢性肝炎となる場合もあります。年齢が低いほど、急性肝炎の症状は軽いかあるいは症状はあまりはっきりしない一方、ウイルスがそのまま潜んでしまう持続感染(キャリア)となることがあり、予防接種は重要といえます。

※1歳までに3回受けなければならないのでご注意ください！！

予防接種法に基づく予防接種の一覧とスケジュール例



★定期予防接種

(出生後～7歳6か月まで)

ワクチン名	接種回数	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	1歳	1歳半	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	7歳半	
不活化 ヒブ	4回		↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
不活化 小児用肺炎球菌	4回		↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
不活化 B型肝炎 (H28.10.1から)	3回		↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
不活化 4種混合 ・ジフテリア(D) ・百日咳(P) ・破傷風(T) ・ポリオ(IPV)	4回		↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
生 BCG (結核)	1回	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
生 MR混合 (麻疹風しん)	2回										↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
生 水痘 (水ぼうそう)	2回										↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
不活化 日本脳炎	3回																			↓

■ 無料で接種できる年齢

■ 標準的な接種年齢

↓ 接種

【DT2期】1回接種
11歳以上13歳未満

小学校就学前の
1年間(年長児)

【2期】1回接種
9歳以上13歳未満

★任意予防接種(料金が必要です)

- ・ロタウイルス・・・生後6週以降、4週以上の間隔で計2回と、計3回の2種類のワクチンがあります。
- ・おたふくかぜ・・・12か月以降 1～2回
※保育所など集団生活に入る子は、早めに受けましょう。
- ・インフルエンザ・・・生後6か月以降 2～4週間隔2回(毎年)
※10月後半から流行期前の間に受けましょう。

かかりつけ医とよく相談し、適切な時期に予防接種を受けましょう!



【生ワクチン】

次のワクチンの接種は、4週間後の同曜日から可能です。

【不活化ワクチン】

次のワクチンの接種は、1週間後の同曜日から可能です。

☆ 複数のワクチンを同時に接種する「同時接種」は、医師が必要と認めた場合に行うことができます。

ほけんだよりは、くれ子育てねっとの子育て支援サービスでもご覧になることができます。

URL <http://www.kure-kosodate.com/>